

正福寺報

平成 28 年正月号

臨濟宗 円覚寺派
住職 松原 行樹
TEL 045-811-3800
FAX 045-811-6304
shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町 3 4 0

<http://shouhukuji.com/>

ご縁に身を任せる

正福寺住職 松原 行樹ぎょうじゆ

洗濯物が風に身を任せるように
人生も任せよう。
時が過ぎ、洗濯物が乾くように
涙だつて乾くはずさ。
さあ、頑張ろう。

故川島なお美さんが最後の舞台上
歌った一節です。

一つのご縁をそのまま受け入れて
いけば迷うことはないのですが、私た
ちはつい自分の都合で、一つのご縁を
善悪・得失などと色々と価値判断を添
えがちです。こうした自分の都合によ
る分別が迷いの原因となるのです。

そもそもご縁に善いも悪いもあり
ません。善いご縁とは自分にとって善
いご縁であり、つまり自分の物差しに

合うか合わないかのことです。

舞台の説明の一節に、「人は、痛み、
傷、闇：様々な真実を受け入れなければ
ならない、受け入れれば楽になる、楽に
なる、受け入れれば楽になる、楽に
なれば希望が生まれる」とありました。

私たちは訪れる「ご縁を選んでい
るようですが、ご縁は選べません。だか
らこそ、その時々のご縁に身を任せよ
う。訪れるご縁に自分の都合を添えて
思い通りにならないことに引きずら
れるのではなく、ご縁のままに身を
任せて生きていこうじゃないか。ご縁
をそのまま受け入れることによつて
洗濯物が乾くように、私たちの迷いの
心もほどこけていくのだ、と冒頭のセリ
フを解釈しました。

泣きたい時には泣き、苦しむ時は苦
しむ。ただそれを引きずらない、留ま
らないようにしていくことが大切な
のではないのでしょうか。